

水上オートバイ（PWC）における事故の分析及び分類

1714020 鷺坂 育実 （海洋スポーツ・健康科学研究室）

I. 研究の目的

水上オートバイ(英語では Personal Water Craft、以下、PWC と略記)は、近年、若者を中心に人気のあるマリレジャーの 1 つとして定着しつつある。しかし、PWC は、100km/h ものスピードで走行できる特性を有するがゆえに危険性をはらんでおり、毎年約 60 件の PWC に関連した事故が発生している。本研究では、公表されている事故事例についての情報を整理し、事故防止や安全性の向上に資する基礎的な資料を作成することを目的とする。

II. 研究の方法

本研究では、国土交通省の外局として、航空・鉄道・船舶事故等の原因究明と再発防止策を講ずることを目的に設置された、運輸安全委員会（JTSB）が発行している船舶事故調査報告から、PWC に関する事故データ(2012 年 7 月～2019 年 9 月発生)を収集した。収集した 99 件のデータについて、web 上で閲覧可能な形態にデータを整理するとともに、事故原因の分類を行った。

III. 結果と考察

収集した 99 件の事故の原因については、「PWC と PWC、PWC がえい航している浮体、その他小型船舶との衝突：61 件 (62%)」、「落水：10 件(10%)」、「波浪：8 件(8%)」、「壁、岩、物に衝突：8 件(8%)」、「落水者、遊泳者と接触：5 件(5%)」、「原因不明：4 件 (4%)」、「その他：3 件(3%)」に分類された。衝突を防ぐためには、自船の存在を示す対策、周囲の他船を認識するようにする対策を講じる必要がある。衝突のうち、「他船に水しぶきを浴びせようとした」という理由の事例が数件認められた。他船の付近で水しぶきを作るための急加速、急旋回は事故につながりやすい。この他の事故原因では「落水」「波浪」によるものが多いため、同乗者の落水を防止するような操縦や、遊走する水域の状況を十分に確認する、他船の航走波の影響を受けないよう船間距離を保つことも必要である。壁、岩、物への衝突を防ぐためには、狭い水道などにおいて速度を落とす、操船者の技量に見合った水域で操船するといった対策が必要である。遊泳者との接触を防ぐためには、遊泳エリア付近での遊泳者への配慮や、航行可能区域を明確に示すなどの対策も必要となると考えられる。

IV. おわりに

本研究では、PWC における事故事例を収集し、事故原因を整理するとともに事故形態の特徴を整理した。また、それらのデータについて、海洋スポーツ事故事例データベースの一部として公開した。

主な参考文献

漆谷伸介・漆谷優里・千足耕一：水上オートバイ愛好者を対象とした調査研究－関東主要水域を対象として－、海洋人間学雑誌、5 巻 3 号：53-57、2016.